

指定管理者評価表

様式1

1 基本情報

(1) 公の施設の名称	
堺市立梅文化会館	
(2) 施設の設置目的	
市民文化の創造及び振興に寄与するため設置	
(3) 所管部局	
文化観光局 文化部 文化課	
(4) 指定管理者名	
公益財団法人堺市文化振興財団	
(5) 指定期間	
平成27年4月1日から令和2年3月31日まで(5年間)	
(6) 主な事業	
<ul style="list-style-type: none">・貸館業務をはじめとする施設の管理運営に関すること・ホールなどを活用した文化芸術振興事業を行うこと・施設設備の維持及び修繕等、保守管理に関すること・消防訓練や避難経路の確保を行い緊急時の対応に備えること・市から貸与を受けた備品を適切に管理すること・利用者の意見を管理運営に反映させるため、アンケート等による意見聴取を行うこと・自主事業に係る業務に関すること	
(7) 有料施設の有無	
有(利用料金制)	
(8) 公募・非公募の別	
公募	
(9) 主な利用者	(10) 市内における受益対象者数
市民	不特定多数
(11) 近隣の類似施設名及び当該施設の評価に用いられている指標	
和泉シティプラザ	

2 管理運営状況

(1) 特筆すべき事項 (地域貢献等の実績、取組、成果等)

利用者のニーズや地域の特色を踏まえたうえで、朗読発表会や文化講座など、市民参加型の事業を積極的に実施し、地域密着型の文化会館として市民の文化活動の促進を図っている。

(2) 利用者サービス

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
指定管理者名	公益財団法人堺市文化振興財団	公益財団法人堺市文化振興財団	公益財団法人堺市文化振興財団	公益財団法人堺市文化振興財団	公益財団法人堺市文化振興財団
ア 利用者数 (人)	178,637	176,242	187,731	177,946	
利用者数の算出方法	文化芸術振興事業、自主事業、貸館事業等で桐文化会館を利用した人数				
市による状況分析	昨年度から9,800人弱減少しており、今年度の目標人数18万人も未達成である。貸館の利用率の低下や、主催事業の券売率の低さが原因であると考えられる。				
イ 稼働率 (%)	81.1	80.6	81.5	79.7	
稼働率の算出方法	ホールや生涯学習施設 (諸室) 等における指定管理者主催事業や貸館事業等による稼働率				
市による状況分析	昨年度から1.8%減少しており、今年度の目標値81.9%も未達成である。利用者の高齢化に伴う利用回数の減少や、悪天候等により低下したものと考えられる。				
ウ 利用者満足度 (%)	88.8	82.6	85.0	84.0	
利用者満足度の測定方法	文化芸術振興事業 (ホール公演等) の入場者や、貸館利用者に対して実施したアンケート結果				
市による状況分析	昨年度からの大きな満足度低下はないものの、今年度の目標90%は未達成である。施設の老朽化等による利用者の不満が主な原因と考えられる。				
(3) 管理体制等					
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
ア 職員数 (人) ※各年度4月現在	13	13	13	13	12
イ 職員研修 (回) ※令和元年度は予定回数	7	12	11	16	10
ウ 要望、苦情等 (件)	0	0	0	1	—
エ 事件、事故等 (件)	0	0	2	2	—
市による状況分析	指定期間全体を通して、大きく変化はない。				

(4) 収支状況 (単位:円)

■ 指定管理業務

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度(予算)
ア 収入	指定管理料	90,900,000	90,873,000	90,846,000	90,820,000	91,634,000
	利用料金	24,329,191	25,359,467	26,111,728	24,721,086	26,264,000
	負担金	0	0	0	0	0
	その他収入	10,874,975	11,037,018	10,473,697	12,670,079	13,090,000
合 計		126,104,166	127,269,485	127,431,425	128,211,165	130,988,000
イ 支出	人件費	39,516,523	39,216,549	41,743,942	41,390,754	40,300,000
	委託料 ()内は総支出額 に占める委託料の割合	52,900,102 (40.2%)	53,649,739 (40.6%)	55,294,602 (40.6%)	54,584,463 (40.0%)	53,307,000 (40.7%)
	修繕費	2,246,055	1,283,256	1,939,817	1,769,526	2,800,000
	光熱水費	27,469,402	27,971,844	27,396,146	28,429,336	26,903,000
	その他経費	9,369,172	9,888,367	9,974,218	10,376,010	7,678,000
合 計		131,501,254	132,009,755	136,348,725	136,550,089	130,988,000
利用者一人当たりの支出額		736	749	726	767	—
ウ 収支差額		-5,397,088	-4,740,270	-8,917,300	-8,338,924	0

エ 市への納付金の額	—	—	—	—	—
オ 徴収委託の場合 の徴収額	—	—	—	—	—

市による状況分析	稼働率の低下に伴い利用料金は減少したものの、文化芸術振興事業の内容をブラッシュアップすることで、昨年度よりも入場料(参加料)収入が220万円程度増加した。ただし、全体として赤字であるので、ホール事業等の観客動員数をさらに増やすよう改善する必要がある。
----------	---

■ 自主事業 (有)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度(予算)
ア 収入	5,571,683	6,786,401	6,013,190	4,505,242	4,548,000
イ 支出	6,552,954	6,257,475	7,001,894	4,259,041	3,906,000
ウ 収支差額	-981,271	528,926	-988,704	246,201	642,000

エ 市への納付金の額	—	—	—	—	—
------------	---	---	---	---	---

オ 事業数(回)	13	8	10	9	
----------	----	---	----	---	--

カ 参加者数(人)	1,702	1,692	5,418	4,583	
-----------	-------	-------	-------	-------	--

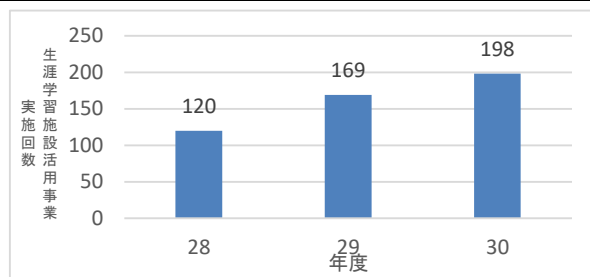
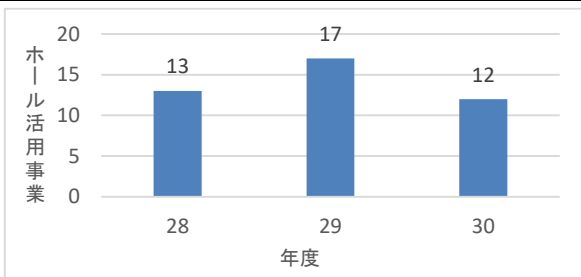
主な自主事業	堺フィルハーモニー交響楽団、梅文朗読発表会、各種文化講座等
--------	-------------------------------

市による状況分析	開催する事業が利用者に定着することで、参加者数が増加し、直近2年について黒字となっている。
----------	---

3 目標管理、評価等

(1) 適正な管理運営の確保

目標管理	評価の指標	①ホール活用事業：「鑑賞型」「参加型」「普及型」公演事業の年間実施回数 ②生涯学習施設活用事業：年間実施回数	(設定理由) 市民文化の創造及び振興に寄与するための施設としての適正な管理運営の確保を評価する指標であると考えられるため。
	目標	①6回以上 ②12回以上	(設定理由) 仕様書において求める目標
	実績	①12回 ②198回	(分析) ※目標未達成時は詳細な原因分析 目標を大幅に上回った。



平等利用、維持管理、人員配置、事故対応、安全・緊急時対策等に関する特記事項	施設の建築年から30年以上が経過し、経年劣化による故障等が発生し19カ所修繕した。堺市が工事する場合は、適切に協力し対応した。
---------------------------------------	---

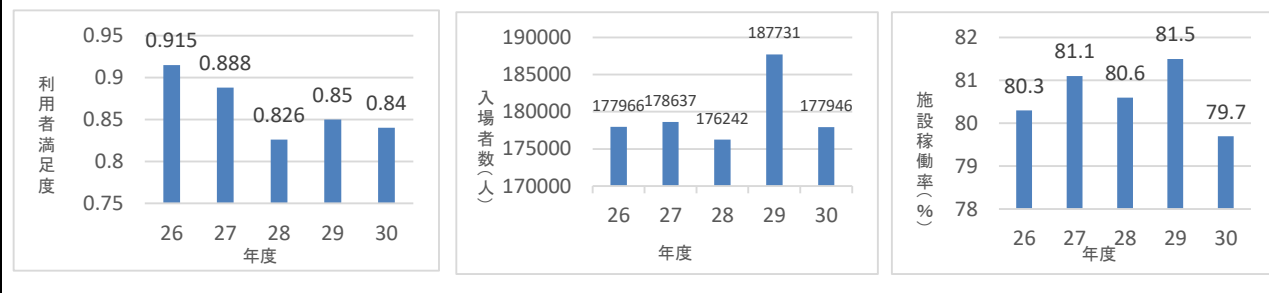
利用者等からの意見、要望、苦情等とその対応	利用者から駐車場の利用に関する苦情があったが、利用者に対し丁寧に対応したうえで、職員に指導を行うなど再発防止に向けて適切に対応した。
-----------------------	--

評価等	指定管理者の自己評価		市の評価	
	評価	B		A
	具体的な理由	「ホール活用事業」「生涯学習施設活用事業」とともに、目標数値をクリアしたものの、特にホール主催事業での集客が伸び悩み、収支に大きく影響している。集客が伸び悩んでいる要因は、「利用者ニーズとのミスマッチ」、「チケット料金の設定」が大きいと思われる。生涯学習施設活用事業は、利用者アンケートの結果においても、概ね好評を頂いており、今後もこれまでの方向性を維持しながらブラッシュアップを目指す。	ホール活用事業、生涯学習施設活用事業とともに、市が求める目標を大幅に上回る回数の事業を実施しており、利用者のニーズにあった事業展開を検討しており、意欲的な姿勢が評価できる。	
対応策等	令和2年度以降、収支改善も含め、ホール主催事業では、梅文化会館のコアターゲットである60歳～70歳代のニーズにマッチした企画にリニューアルする他、料金は3,500円を上限とすることにより、「身近な会館で手ごろな料金で文化芸術に触れてもらう」という方針のもと、改善に取り組む。	利用者のニーズに合わせた主催事業の展開や料金設定を検討することも必要ではあるが、コアターゲットが高齢者層であるため、長期的な会館運営の観点から、子どもや若い世代も参加できるような企画展開も工夫されたい。		

評価基準	S	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を大幅に上回り(120%以上)、かつ前年度実績を上回る成果があり、特に優れているもの
	A	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を上回り、かつ前年度実績を上回る成果があり、優れているもの
	B	概ね仕様書で求める目標や水準どおり(80～100%)の成果があり、適正なもの
	C	仕様書で求める目標や水準を下回り、努力が必要なもの
	D	管理運営が適切に行われたとは認められず、改善が必要なもの

(2)利用者サービスの向上への取組

目標管理	評価の指標	①利用者満足度 ②入場者数 ③施設稼働率	(設定理由) 施設の利用し易さ、又は施設で行う事業の魅力を反映しやすい指標として考えられるため。
	目標	①90% ②16万人 ③80%	(設定理由) 仕様書において求める目標
	実績	①84.0% ②177,946人 ③79.7%	(分析) 入場者数は目標を達成できたが、利用者満足度、施設稼働率は未達成であった。設備の老朽化により利用者満足度の低下につながり、天候等の影響により施設稼働率が低下したものと考えられる。 ※目標未達成時は詳細な原因分析



利用者サービス、利用促進、自主事業、人権尊重に配慮した情報提供、利用者意見・要望の反映等に関する特記事項	会館を普段利用している文化サークルが、活動の成果を発表できる機会として「フェスティバルin梅」を開催し、梅文化会館への愛着と利用者の達成感を醸成した。
--	---

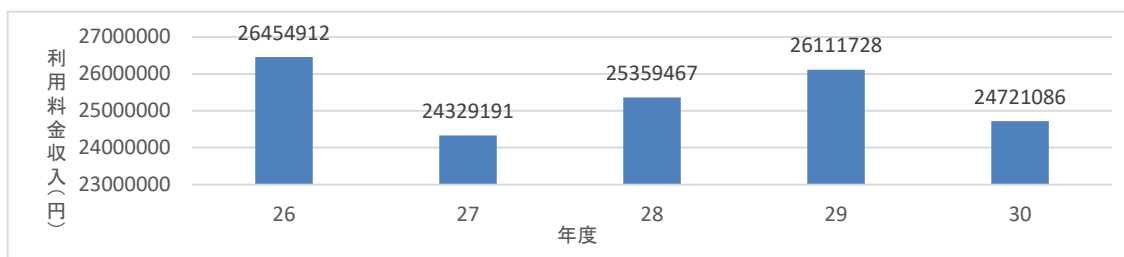
利用者等からの意見、要望、苦情等とその対応	イベントごとに利用者からアンケートで意見を聴取することで、利用者のニーズを把握し、それに合った事業を展開した。
-----------------------	---

評価等	指定管理者の自己評価		市の評価	
	評価	B		B
	具体的な理由	利用者アンケートの結果、「設備の老朽化による不便さ-冷暖房・和式トイレ・食事施設の不備・育児ルームの不備」などに対する不満の声が多く見受けられる。解決にはコスト面で大きな課題があるため対応に苦慮している。	開館から30年以上が経過し、施設の老朽化等による利用者の不満が反映されたものと考えられる。	
対応策等	指定管理者として現在の設備を適切かつ丁寧に利用するとともに、文化課と協議の上、随時、設備の更新に着手していく。	指定管理者には、より適切に施設を利用・補修していくことで、今後とも長期に渡って施設を利用できるよう努められたい。また、市と連携し、必要な設備の更新に協力されたい。		

評価基準	S	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を大幅に上回り(120%以上)、かつ前年度実績を上回る成果があり、特に優れているもの
	A	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を上回り、かつ前年度実績を上回る成果があり、優れているもの
	B	概ね仕様書で求める目標や水準どおり(80~100%)の成果があり、適正なもの
	C	仕様書で求める目標や水準を下回り、努力が必要なもの
	D	管理運営が適切に行われたとは認められず、改善が必要なもの

(3) 収支の実績

目標管理	評価の指標	利用料金収入	(設定理由) 指定管理者において営業努力が反映されやすい指標のひとつとして考えられるため。
	目標	26,500千円	(設定理由) 仕様書において求める目標
	実績	24,721,086円	(分析) 180万円ほど目標に達しなかった。利用者の高齢化に伴う利用回数の減少や、悪天候等により低下したものと考えられる。 ※目標未達成時は詳細な原因分析



収入増加のための取組、収支状況、経営状況、経理事務等に関する特記事項	主催事業の観客動員数を増やすため、広報周知に努めるなどの改善が必要である。
------------------------------------	---------------------------------------

利用者等からの意見、要望、苦情等とその対応	特になし。
-----------------------	-------

評価等	指定管理者の自己評価		市の評価	
	評価	B	B	B
	具体的な理由	地域の高齢化により、集会室・ホール等の利用者が年々減少傾向にあり、それに伴い利用料収入も減少している。今後も、高齢化により大幅な利用者・利用料収入増は見込めないため抜本的な解決策を見出さなければならない。	昨年度と比較すると稼働率が若干減少したことに伴い、施設利用料が減少した。光熱水費や施設維持経費といった固定費の割合が大きい。稼働率の増加及び主催事業の集客アップ等、収支改善に努められたい。	
対応策等	集会室の稼働率を上げ、利用料収入を増やすための具体的な対応策を模索するとともに、特に、主催事業面での観客動員数・売上増に向けた広報強化、新企画の開発に取り組み、入場料収入を増やすことで、利用料収入面をカバーする。	比較的稼働率が低い平日や夜間帯の稼働率を上げることで、利用料金を増やすとともに、主催事業の内容を更にブラッシュアップしたり、様々な宣伝媒体を活用するなどし入場料収入を増やされたい。		

評価基準	S	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を大幅に上回り(120%以上)、かつ前年度実績を上回る成果があり、特に優れているもの
	A	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を上回り、かつ前年度実績を上回る成果があり、優れているもの
	B	概ね仕様書で求める目標や水準どおり(80~100%)の成果があり、適正なもの
	C	仕様書で求める目標や水準を下回り、努力が必要なもの
	D	管理運営が適切に行われたとは認められず、改善が必要なもの